

1. 構想の概要

【構想の名称】

東北大学グローバルイニシアティブ構想

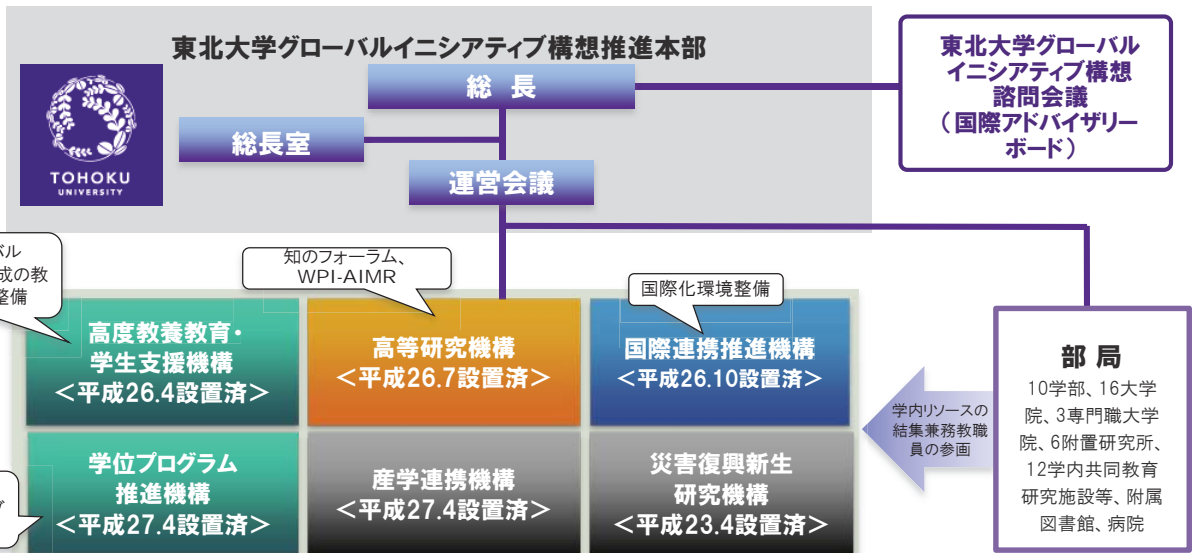
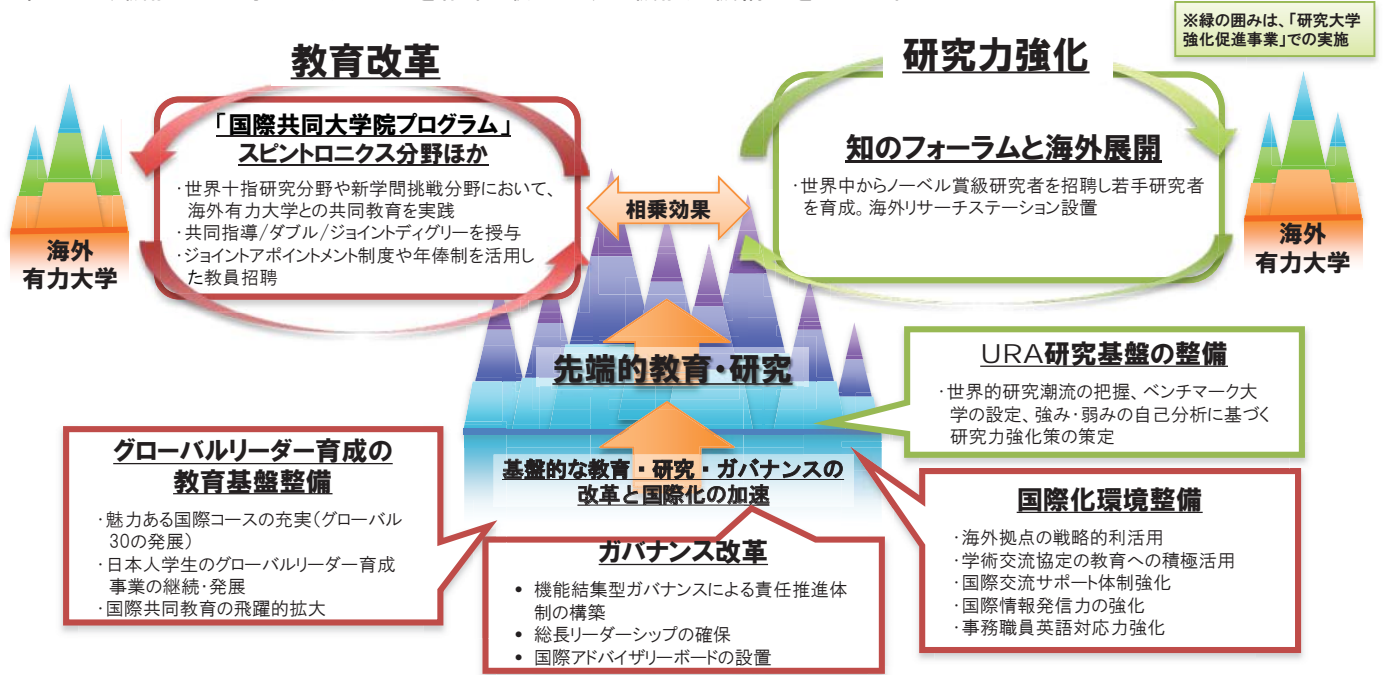
【SGUの取組を通じて目指す大学の将来像】

東北大学を中核とする「知の国際共同体」を形成し、グローバル時代を牽引する卓越した教育研究を行う真の「ワールドクラスの大学へと飛躍」とともに、高度なグローバル人材の育成、イノベーションに繋がる諸科学・技術の創成、地球規模の課題に対する解決策と持続可能な発展の方策を示すことで、世界から尊敬される「世界三十傑大学」を目指す。

【構想の概要】

国内外から優秀な学生が「集い、学び、創造する」場を創出し、グローバルな時代を生きる若者が、本学の伝統である高い専門力はもちろんのこと、新時代のリテラシーとグローバルマインド等のコンピテンシーを修得できるような「グローバルリーダー育成の教育基盤整備」を加速する。そして、その基盤の上に、本学の強みのある研究分野や今後重要になり重点的に伸ばしたい分野について、海外有力大学との密接な連携のもと本学の教育力・研究力を結集して7つの「国際共同大学院プログラム」群を創設する。これらのプログラムにより、世界トップレベルの研究能力と広い視野、グローバルな感覚と経験を持ち、新たな知の創造、イノベーションの創出やグローバルな課題に挑戦する人材を育成する。さらに、「知のフォーラム」等の研究力の強化の取組と有機的に連携して、東北大学を中核とする「知の国際共同体」を形成する先進的研究教育クラスターを構築する。

この構想の実現のため、国際化の環境整備を一層進めるとともに、総長の意思を迅速に反映させる機動的体制整備の一環として、機能ごとに学内のリソースを結集・最適化する機能別機構化を進める。



【10年間の計画概要】

○ 運営体制の構築

H26年度に「東北大学グローバルイニシアティブ構想推進本部」を設置。運営体制を構築。H27年度「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議(国際アドバイザーボード)」設置。H28年度、H31年度、H35年度に外部評価実施。

○ ガバナンス改革

H26年4月設置済みの高度教養教育・学生支援機構に加え、国際連携推進機構(H26年10月設置)、学位プログラム推進機構(H27年4月設置)など、6つの機構を設置し、学内資源の結集のもと機能結集型ガバナンスを実行。IR機能の強化推進。

○ 国際共同大学院プログラム

H27年4月初めての国際共同大学院プログラムとして「スピントロニクス国際共同大学院(GP-Spin)」を設置。さらにデータサイエンス分野等少なくとも7つの国際共同大学院プログラムをH31年度までに設置。

○ グローバルリーダー育成の教育基盤整備

グローバル30で設置した国際学士・大学院コースである「Future Global Leadership(FGL)プログラム」や短期受入プログラムを拡充し多様で優秀な外国人留学生を受け入れる取組で外国人留学生数を増やすとともに、「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)」を継続的に実施し、海外研鑽と組み合わせながらグローバルリーダーの基礎的素養を身につける教育プログラムを発展。さらに、海外の大学との教育連携や、大学院レベルでのダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育を飛躍的に拡大。

○ 国際化環境整備

教職員・学生の国際流動性の向上と教育研究の国際連携強化のため、海外拠点・学術交流協定校・コンソーシアムを活用したグローバルネットワークの戦略的強化を実行。「国際連携推進機構」(H26年10月設置)のもとで、国際連携戦略の立案・実施、世界的なプレゼンスの向上・ランキング向上等に取り組む。国際広報発信力の強化(国際広報センターの設置)、海外からの受入体制の強化(国際サポート室の設置)、事務職員の英語対応能力の向上等により、国際化環境を格段に整備。

【特徴的な取組(国際化、ガバナンス改革、教育改革等)】

「国際共同大学院プログラム」の創設

○東北大学の強みを活かし世界を牽引できる分野や、今後重要になり人類の発展に貢献できる分野を選定

○これまでの教育組織の枠を超えて東北大学の英知を結集し、海外有力大学との強い連携のもと共同教育を実践

狙いと役割

- ①現代的ニーズにマッチし、かつ世界を牽引する高度な人材を育成
- ②研究力強化に繋がる先端的教育プログラムを創出
- ③将来の知的基盤の構築、国際競争力を支えるイノベーションの創出並びに、持続可能社会の実現などの地球規模の課題解決を牽引

概要

- 部局横断型/学位プログラム型の大学院プログラム
- 本学教員と国際連携先の大学教員による共同指導
- 共同指導/ダブル/ジョイントディグリーへ順次移行
- 5年以内を目途に少なくとも7プログラムを設置

世界十指に入る学問領域の拡大

スピントロニクス

材料科学

宇宙創成物理学

環境・地球科学

新学問領域への挑戦

データ科学

生命科学
(脳科学)

災害科学・
安全学

【海外の大学との連携の推進方策】

○海外拠点・学術交流協定校・コンソーシアムを利活用したグローバルネットワークの形成

大学間協定206機関、部局間協定411機関(平成28年6月現在)、APRU等5つの大学間コンソーシアムを利用した海外トップレベル大学との連携の推進、研究に加えて教育機能を持った海外拠点(北米、アジア、ヨーロッパ)の展開によるグローバルネットワークの形成を推進。これらをもとに国際共同教育の拡大。

○知の国際共同体の形成

「国際共同大学院プログラム」と「知のフォーラム」等の研究力強化の相乗効果で教育・研究の海外有力校との連携による知の国際共同体の形成。

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 国際連携推進機構の設置と国際化環境整備

本学のグローバル戦略を推進し、国際的プレゼンスを向上させるため教育研究における国際連携強化を一体的に行うことを目的として、「国際連携推進機構」をH26年10月に設置した。また、国際広報センターの機能を強化し国際発信力の高いホームページや英語版プロモーションビデオ等の広報資料を作成した。さらにH26年10月に国際サポート室を設置し、東北大学に来訪する外国人研究者・留学生向けに情報提供と、在留資格に関するサービスを一元化して行う体制整備を構築した。

○ FGLプログラムの継続実施

優秀な外国人留学生を受け入れる英語だけで学位が取得できる国際コース(学部・大学院)である「Future Global Leadership (FGL)プログラム」を継続実施した。

○ SAP等の短期海外派遣プログラムの充実

日本人学生に対するグローバル教育の柱の一つとして、全学のスタディアブロードプログラム(SAP)などの短期海外派遣プログラムや部局の特徴を生かした短期派遣プログラムの開発と実施に注力。H26年度は400名を超える学部学生が参加。さらに前年度初めて実施して好評だった「入学前海外派遣プログラム ~High School Bridging Program~」をH27年3月に実施した。



〈スタディアブロードプログラム〉

○ 実践的英語学習支援

日本人学生の実践的英語運用能力の向上のため、これまでの正課・正課外での英語授業の充実に加え、H27年度に課外での様々な英語学習支援を行う「東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)」を開設した。

ガバナンス改革関連

○ 機能結集型ガバナンスのための機構化の推進

H26年4月設置の「高度教養教育・学生支援機構」に続き、「高等研究機構」(H26年7月)、「国際連携推進機構」(H26年10月)、「学位プログラム推進機構」(H27年4月)を設置し、他の2つの機構と合わせて、機能別に本学のリソースを結集した機構群を構築し、総長の意思を迅速に反映させるガバナンス体制を整備。

○ 事務職員の高度化の取組

事務職員の英語対応力強化を図るため、全ての職員が3年以内にTOEICを受験することを決定。H26年12月に実施した団体受験では、200名を超える事務職員・技術職員が受験。また、外部講師を招聘し職員がやる気になる「英語学習法セミナー」を実施。130名が参加した。

○ IR機能の強化

教育については高度教養教育・学生支援機構「教育評価分析センター」が、研究については「URAセンター」においてIR機能に基づく教育・研究の可視化に取り組んだ。さらに、こうしたIR機能の集約化について検討開始。

教育改革関連

○ 高度教養教育・学生支援機構による教養教育改革

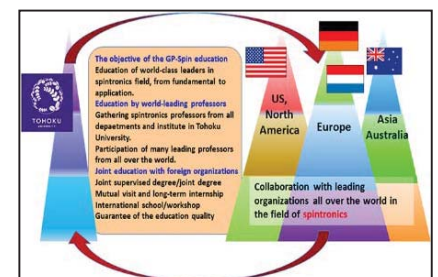
H26年4月に全学的教育・学生支援体制の戦略的再編として設置された「高度教養教育・学生支援機構」のもとで、グローバルリーダーの育成という観点から教育実践に関する調査・研究・開発・実施を一体的に行う体制を整備、教学マネジメントの強化を図っている。教育国際交流を担うグローバルラーニングセンターが教養教育組織に参画するユニークな組織を構成。

○ 国際共同大学院プログラムの開始

H26年度は最初の国際共同大学院プログラムである「スピントロニクス国際共同大学院(GP-Spin)」の開設準備を行った。共通講義などのカリキュラムを整備、海外連携先大学との交渉などを行い、H27年4月に開設。他のプログラムについても開設に向けた準備を開始。

○ グローバル化に向けた新たな入試の導入を決定

国際バカロレア入試や日本人学生を対象に英語で教育するためのグローバル入試の導入を決定、H29年度より実施予定。また拡大するAO入試の中で積極的にTOEFL等の外部試験を活用。



〈GP-Spin概念図〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 国際共同教育の拡大

ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の取組を強化した。海外協定大学からのダブルディグリー等での受入が進み、H27年度は47名となり大幅な増加。派遣の促進のため、国際共同教育や国際共同大学院プログラム学生に対する本学独自の奨励制度を制定しH27年度から実施。

○ 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施。国際共修ゼミや課題解決型授業、グローバルキャリアセミナー等多くの授業を開講した。TGLプログラムには学部1、2年生を中心に約2,000名の学生が登録。所定の条件を満たした学生を「グローバルリーダー」として認定。



〈 TGLプログラム 〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

○ マインツ大学との「共同指導博士課程プログラム覚書」締結

スピントロニクス国際共同大学院の推進のため、H27年2月にヨハネスグーテンベルク大学マインツ(マインツ大学)との間で、共同指導博士課程プログラム(Jointly Supervised PhD program)に関する覚書を締結。今後、同様の覚書を他分野でも締結する予定。



〈 共同指導博士課程プログラム覚書調印式 〉

○ ケンブリッジ大学での東北大学ディ開催

H26年12月に英国・ケンブリッジ大学において東北大学ディを開催。両大学の大学紹介等を行うとともに、今後の学生・研究者交流を目的として共同声明の調印式を行った。また、グローバル安全学分野及び材料科学分野のワークショップを開催した。

○ 第4回日独6大学学長会議(ヘキサゴン)を東北大学で開催

H27年4月に日独6大学学長会議(HeKKSaGOn(ヘキサゴン))を東北大学で開催。「Building Venues for the Creation of new Knowledge」というテーマに沿って全体会議を行うとともに、8つの分野からなるパラレルワークショップを開催した。

【海外の大学との連携の実績】

○ 大学間コンソーシアムにおける活動:

海外有力大学とのコンソーシアムに主体的に参加。AEARU(東アジア研究型大学協会)年次総会(H26年11月)、T.I.M.E.(欧州トップレベルエンジニア養成)年次総会(11月)、RENKEI(日英産学連携スキーム)年次総会(12月)等に出席。3月に日露学長会議に日本側代表幹事校として参加。また、H27年4月にはHeKKSaGOn(日独6大学学長会議)を主催したほか、6月にはリヨン大学が主導するAlliance Internationale設立会合に参加した。

○ 海外協定校との連携強化:

ケンブリッジ大学における東北大学ディの開催(H26年12月)、多くの協定校が参加してSGUキックオフシンポジウムの開催(H27年2月)、ハーバード大学でのTohoku-Harvard Workshopの開催(H27年5月)等。

○ 海外拠点活動の充実:

海外拠点活動を通じて、拠点を設置している海外協定校等との連携強化。(モスクワ国立大学、ロシア科学アカデミーシベリア支部、リヨン大学、ケンブリッジ大学、UCリバーサイド校、シカゴ大学、バンドン工科大学、チュラロンコン大学(予定)等)

■ 自由記述欄

○ SGUキックオフシンポジウムの開催

本学のスーパーグローバル大学創成支援事業のキックオフシンポジウムをH27年2月に開催。マインツ大学、リヨン大学、ケンブリッジ大学、ケースウエスタンリザーブ大学、ワシントン大学、チュラロンコン大学等からゲストを招聘し、本構想を紹介するとともに、海外パートナー校との国際共同による新たな教育・研究について議論を深めた。国内外から約100名が参加。

○ 本構想のホームページ

<http://www.tohoku.ac.jp/sгу/ja/>



〈 SGUキックオフシンポジウム 〉

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

1. 外国人教員・留学生の受入促進

- 外国人教員の雇用拡大を支援するため、「外国人教員等雇用促進経費(1億円)」を措置し、新規に雇用した外国人教員の人件費の一部を支援する取組を推進した結果、H27年度(5月1日)の外国籍教員の対前年度増加率は4.3%だったが、H28年度(5月1日)は13.5%と大幅に増加した。(H26年度:185人、H27年度:193人、H28年度:219人)
- グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコースの拡充のほか、半年～1年程度の交換留学プログラム、3か月未満のショートプログラム等の受入プログラムの充実とともに、国際交流サポート室の留学生支援を更に進めた結果、外国人留学生数がH26年度(通年)の2,177人からH27年度(通年)は2,938人と大幅に増加した。

2. 留学生OBによるワークショップ

2005年から2006年にかけて本学へ留学していた元交換留学生たちが本学への留学10周年を記念して集合し、2016年4月19日にワークショップを開催した。本学留学後、ジョンズ・ホプキンス大学や米NASA、仏エアバス社やAREVA社など、研究やビジネスの第一線で活躍する16名により「留学体験が自身のキャリアに与えた影響」などのプレゼンテーションが行われ、現役学生たちとの活発な意見交換を行った。



〈 JYPE International Mentorship Event 〉

3. 外国語による情報発信

国際広報センターでは、ネイティブスタッフによるこれまでの「英語版ウェブのリニューアルに伴うアクセス数2倍達成」「ソーシャルメディア6つの発足によるフォロワー1.3万人突破」等に加え、「本学研究成果等(英文記事)のEurekAlert・ReseachSEA等へのWeb拡散により、1万人の科学ジャーナリストに素早くリリースできる体制を整える」など、本学の海外発信力・国際的なプレゼンスの向上を高める取組を更に進めた。

ガバナンス改革関連

1. 国際アドバイザリーボードの設置

本事業の外部評価機関として設置される「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議(国際アドバイザリーボード)」に関する規程等を整備するとともに、海外有力大学の学長クラスの有識者とグローバルに活躍する企業のビジネスリーダーからなる6名(H28年3月時点)の委員を任命した。

2. IR室の設置

教育、研究その他の本学の諸活動に関する多様なデータの効果的かつ効率的な集約及び分析等を行うことにより、本学の戦略的な大学経営の推進に資することを目的として、H28年1月に「東北大学インスティテューショナル・リサーチ室(IR室)」を設置し、4月1日で専任教員を配置した。

3. 事務職員の高度化への取組

職員の英語対応力強化を図るため、外部講師による6か月間の英語研修(40名程度)を実施した。受講者のうち約40%(16名)が本学目標(TOEIC700)を達成するとともに、約60%(24名)がTOEIC100ポイント以上のスコアアップを達成した。また、一定のスコア達成者のうち10名を豪州・シドニー大学への職員海外研修に派遣し、シドニー大学職員とのディスカッションやプレゼンテーション等のプログラムを履修した。本学国際化への更なる貢献が期待される。

教育改革関連

1. アクティブラーニング科目・国際化教育科目の拡充

演習・実習・実験・フィールドワーク等のアクティブラーニング科目である「展開ゼミ」や、言語や文化の異なる少人数の学生同士が、グループワークやプロジェクトといった“協働”を通じ多様性の受容・理解、新たな価値観を創造し、身に着ける事を目的とした「国際共修ゼミ」の科目数拡充を図った。(展開ゼミ:30科目→46科目、国際共修ゼミ:11科目→16科目) また、新入生の全員が受講する「基礎ゼミ(能動的学習への学びの転換科目・1クラス20人程度)」については、160を超えるテーマ(クラス)を全学出動態勢で10年以上に渡り継続的に提供・実施している。



〈国際共修ゼミの様子〉

2. 科目ナンバリング、GPA導入の決定

本学における「科目ナンバリング」と「GPA(Grade Point Average)制度」に関する学内規程を整備し、H28年度からの全授業科目での科目ナンバリング導入と学士課程入学者からのGPA導入を決定した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

1. 国際共同大学院プログラム

世界トップレベル大学との国際共同教育(学位プログラム)を飛躍的に推進するため、スピントロニクス分野においてはヨハネスグーテンベルク大学マインツ(マインツ大学)との共同教育プログラムを開始した。(在籍数:H27→7名、H28年4月→16名)また、環境・地球科学分野においては、H28年度から教育を開始する準備を進め、パイロイト大学(独)と国際共同大学院教育プログラムを開始することについて合意した。



(GP-Spinセミナー)

(GP-Spin
オリエンテーション)

2. 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施し、H27年度は前年度を大幅に上回る2,091名(H26年度1,322名)の学生が参加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組

1. メルボルン大学と戦略的パートナーシップ協定を締結

2016年2月に本学とメルボルン大学との間で戦略的パートナーシップ協定が締結され、学生、研究者、事務職員の相互交流等を行うことで合意した。

特に、2016年度はメルボルン大学を会場として共同リサーチワークショップを開催することが決定した。



〈メルボルン大学と協定締結〉

2. T.I.M.E. Association 年次総会の本学開催とAEARU等コンソーシアムへの参加

2015年10月に東北大学がT.I.M.E.(Top Industrial Managers for Europe)年次総会を欧州以外の国で初めて主催した。会議では、日本の高等教育制度の紹介、ダブルディグリー・プログラムでエコール・セントラル・リヨン校から東北大学に來学した留学生と東北大学からスウェーデン王立工科大学に留学した学生から報告等が行われた。そのほか、AEARU(東アジア研究型大学協会)、RENKEI(日英産学連携スキーム)、APRU(環太平洋大学協会)の海外大学コンソーシアム年次総会等へ積極的に参加した。



〈T.I.M.E.: 里見総長のWelcome Address〉

3. アメリカ・ケースウェスタンリザーブ大学と大学間学術交流協定を締結

2015年10月にケースウェスタンリザーブ大学との大学間学術交流協定を締結した。本協定の締結により、データ科学国際共同大学院設立に向けて連携を図ると同時に、特にデータ科学分野の研究・教育についての協力が進むことが期待される。



〈右から里見総長、片山総領事、Snyder学長〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

○大学間コンソーシアムにおける活動:

本学が加盟するAEARU(東アジア研究型大学協会)・APRU(環太平洋大学協会)・RENKEI(日英産学連携スキーム)の年次総会等に出席。また、4月には、日独6大学学長会議(HeKKSaGOn)を、10月には、欧州域外では初となる欧州トップレベルエンジニアリング養成(T.I.M.E.)の総会をそれぞれ本学にて開催。また、7月には、APRUマルチハザードプログラムのサマースクールを本学が主催した。

○海外大学との連携強化:

4月に、ハーバード大学でTohoku-Havard Workshopを開催し、7月には、ケースウェスタンリザーブ大学で、大学間交流協定の締結に加え、データ科学シンポジウムを開催。11月には、本学で、モンタナ大学マンスフィールドセンターとシンポジウムを共催している。2月には、メルボルン大学と戦略的パートナーシップ協定を締結し、次年度に東北大学デーを開催することについて合意した。

○海外拠点活動の充実:

12月にベトナム・ハノイの貿易大学内に共同事務所を開設し、2月にタイ・バンコクのチュラロンコン大学内に、本学バンコクオフィスを設置した。

■ 自由記述欄

1. リエゾンオフィス、共同事務所の設置

2015年6月に本学がINSA-Lyonに設置するリエゾンオフィスに係る覚書をリヨン大学と締結するとともに、本学とINSA-Lyonで進める国際共同研究ユニット事業(Elyt Max)の取組について更に協議を進め、2015年11月にELYT MaXに係る協定を締結した。

また、2015年12月にはベトナムの貿易大学(ハノイ)内に「東北大学-貿易大学共同事務所」を設置し、現地にて開所式を行った。



〈リエゾンオフィス看板除幕式〉

2. 実践的英語学習支援

H27年度に課外での様々な英語学習支援を行う「東北大学イングリッシュアカデミー(TEA)」を開設し、英語学習アドバイジングを始めとして、ELS Language Centersの指導方法を基にした様々な英語学習プログラム(H28年度前期175名参加)を提供している。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコースの実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、2016年5月1日現在の外国人留学生数(在留資格が留学の者)は1,944人で前年度より約280名増加するとともに11月1日現在では2,161人で前年度より約170名増加した。

● 海外留学経験者数の増加

短期海外派遣プログラム(Study Abroad Program)や、中長期の交換留学プログラムの拡充、東北大学イングリッシュアカデミーにおける英語学習支援、東北大学基金等を活用した渡航費用の支援(グローバル萩海外留学奨励賞)等を進めた結果、単位取得を伴う海外留学経験者数が平成27年度より約4割増加し、619名となった。

● 中国校友会幹部との懇談会を開催

2016年5月北京において本学の中国同窓会組織である「中国校友会」幹部との懇談会が開催され、総長及び担当理事が参加。中国校友会側からは、北京在住者を中心に約20名の会員が参加した。各出席者が、それぞれ自分の近況を報告するとともに東北大学や仙台で過ごした日々を懐かしむ発言が続き、大盛況に終わった。



〈短期海外派遣プログラム〉



〈中国校友会幹部懇談会〉

ガバナンス改革関連

● 国際アドバイザリーボード開催

2016年11月に外部評価及び総長のトップダウンの意思決定を助けるための諮問機関として、海外の有識者を委員とする「東北大学グローバルユニシアティブ構想諮問会議」(国際アドバイザリーボード)を仙台で開催した。当日は、海外大学と産業界の有識者6名の委員が出席し、教育・研究・ガバナンスの国際化に関する本学の進捗状況について総長ならびに担当理事等より説明と意見交換を行ったのち、各委員より本学国際化の更なる発展のための様々な助言をいただいた。



〈国際アドバイザリーボード〉

● 東北大学特別招聘プロフェッサーの称号を付与

2007年にノーベル物理学賞を受賞されたペーター・グリュンベルク教授に2016年5月「東北大学特別招聘プロフェッサー」の称号を付与した。特別招聘プロフェッサー制度は、本学の教授に採用したノーベル賞受賞者など国際的に著名な研究者に称号を付与し、教育研究活動のほか、その輝かしい業績をもとに、本学全体における教育研究の活性化に資する活動にも携わっていただくため平成27年3月に新設したものであり、グリュンベルク教授はその第1号となった。



〈特別招聘プロフェッサー称号付与〉

教育改革関連

● GPA制度、科目ナンバリングの導入

2016年度より全授業科目での「科目ナンバリング」を導入し、カリキュラムマップの作成による可視化を実現した。また、「GPA(Grade Point Average)制度」を学士課程入学者より決定した。

● AO入試やグローバル入試等の拡充

本学は、2000年度にAO入試を導入して以来、全募集人員に対するAO入試募集人員を年々充実させてきた。2016年度においては約20%に達し、国立大学の中では群を抜いた規模となっている。また、英語で学位が取得可能なコースを日本人(帰国生徒等)へ提供するグローバル入試を新たに導入した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラム

2015年度のスピントロニクス分野での教育に引き続き、2016年度には環境・地球科学分野でも教育を開始した(スピントロニクス分野17人、環境・地球科学分野12名)。2017年度からの教育プログラム開始に向けて、データ科学分野と宇宙創成物理学分野についても1期生の選抜を行い、データ科学分野で9人、宇宙創成物理学分野12人を選抜し新年度からの教育に向けて準備が整った。



〈環境・地球科学プログラム学生認定式〉

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施し、2016年度は前年度を大幅に上回る2,562名(2015年度2,091名)の学生が参加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 東北大学デイ(メルボルン)

2016年11月、オーストラリア・メルボルン大学において東北大学デイが開催され、総長、関係理事をはじめとして関係者約60名が出席した。本学とメルボルン大学との戦略的パートナーシップ・アクションプランに基づき、学生交流の覚書を追加した新たな学術交流協定更新の調印式、材料科学ワークショップ、事務職員の海外研修が行われた。2017年には、仙台において学術イベントの開催が予定され、今後、両校の益々の交流発展が期待される。



〈東北大学デイ(メルボルン大学)〉

● チュラロンコン大学(タイ・バンコク)に東北大学タイ代表事務所開設

2016年8月、タイ屈指の名門校であるチュラロンコン大学内に「東北大学タイ代表事務所」を設置し、現地にて開所式を行った。東北大学全学の海外代表事務所としては、北京、モスクワ、ノボシビルスクに続く4番目の事務所となった。留学生リクルーティングのほか、同窓会立ち上げ、共同研究の組織支援、現地企業とのインターンシップ開催など、代表事務所をハブとした交流環境の一層の充実が期待される。



〈東北大学タイ代表事務所開設〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● 大学間コンソーシアムにおける活動

平成28年度は2つの活動を主催。7月に17か国から50名の参加を得てAPRU(環太平洋大学協会)マルチハザードプログラムサマースクールを、9月に国内外から約100名の参加を得てAEARU(東アジア研究型大学協会)第11回 Web Technology and Computer Science Workshop を開催し、海外の研究者や学生との交流を図った。海外で開催される多数の活動に対しても本学の研究者や学生を派遣しており、APRU Global Health Case Competitionでは、本学の学生チームが第2位に入賞する成果を挙げた。

● 海外協定校との連携強化

上記メルボルン大学において東北大学デイ開催(11月)のほか、モンタナ大学が関連するエネルギーサミットに研究者を派遣したりするなど、協定校と連携した活動を展開した。

● 海外拠点活動の充実

新たにタイのチュラロンコン大学内に本学の代表事務所を設立し、8月に開所式を行ったほか、高校生を対象としたリクルーティング活動を実施するなど、拠点を活用した活動を展開した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング 日本版において高い評価

2016年度に公表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング 日本版」において、本学は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」のいずれも上位を占め、総合順位において2位となった。長年にわたる本学の教育改革への取組、本学の教育力が高く評価された。



5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコースの実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実を進めた結果、2017年5月1日現在の外国人留学生数(在留資格が留学の者)は2,027人で前年度より約100名増加するとともに11月1日現在では2,217人で5月1日時点より約200名増加した。

● ELyTMaX@リヨン開所並びにELyT Global発足記念式典を開催

2018年3月、本学との大学間協定校である国立応用科学リヨン校(INSALyon)において、ELyTMaX@リヨン開所並びにELyT Global発足記念式典を開催し、総長及び担当理事が参加された。リヨン側からは、リヨン大学長、INSA-Lyon学長のほか、関係者約30名が参加した。ELyTMaXを中核としてドイツ、スウェーデン、中国の研究機関との多国間による共同研究と産学連携を指向したグローバルネットワークを構築するとともに、東北大学とリヨンとの更なる学術連携が期待される。



〈ELyTMaX看板の序幕〉

ガバナンス改革関連

● 東北大学グローバルイニシアティブセミナーを開催

平成29年度は3回(5月、6月、10月)東北大学グローバルイニシアティブセミナーを開催し、グローバル人材育成における課外活動の教育的効果、国際共修、包括的国際化をテーマとして国内外の著名な講師を招へいし講演を行い、本学の今後の国際交流戦略を考察するうえで、有益な機会となった。

● 事務職員の高度化への取組

本学が目標としている英語力(TOEIC700点)を満たす専任職員数について、平成26年9月時点では3%であったが、英語学習法セミナー、eラーニングシステムを利用した研修、TOIECスコアアップ(700点突破もしくは100点アップ)を目的とした語学学校研修を行うことで、平成29年12月時点で7.8%まで向上した。また、一定のスコア達成者のうち10名を豪州・シドニー大学に派遣し、職員海外研修を実施した。本研修を通じ、大学職員の役割や働き方に接することで、国際的業務の必要性に対する意識の醸成を図るとともに多角的な視野や考え方を身に付け、本学国際化への更なる貢献が期待される。



〈修了証書授与式〉

教育改革関連

● 東北大学MOOCの開講

本学では、「世界と地域に開かれた大学」「市民の知的関心を受け止め、支え、育ていける教育研究活動を積極的に推進する大学」の実現を目指すため、平成28年度より東北大学MOOCを開講し、平成29年度は、【memento mori-死を想え-】【解明:オーロラの謎】の再開講に加えて、新規講座【東日本大震災の教訓を活かした実践的防災学へのアプローチ-災害科学の役割】を実施した。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラム

2015年度のスピントロニクス分野、2016年度の環境・地球科学分野での教育開始に引き続き、2017年度は、データ科学国際共同大学院に関しては9名、宇宙創成物理学国際共同大学院に関しては12名を選抜のうえ教育を開始した。本学が世界を牽引する分野において世界トップレベルの大学同士によるカリキュラムの協働と研究者交流、学生交流が行われることにより、教育力の向上と研究力強化がさらに促進されることとなった。



〈宇宙創成物理学プログラムのセミナー〉

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

高い専門基礎力の前提のもと、「語学・コミュニケーション力」、「国際教養力」、「行動力」を養う授業や講座・セミナー等からなるサブプログラムと「海外研鑽」サブプログラムを有機的に組み合わせた学部学生向けのグローバルリーダー育成プログラムを実施し、2017年度は前年度を大幅に上回る2,873名(2015年度2,562名)の学生が参加した。

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 清華大学－東北大学ジョイントワークショップ

2017年12月、清華大学－東北大学ジョイントワークショップを清華大学にて開催し、総長、関係理事をはじめとして関係者約50名が出席した。大学間学術交流協定における両校の連携をさらに強固な体制に位置付けていくことが合意され、特に来年は日中平和友好条約締結40周年であることや、本学と清華大学の大学間交流協定が締結(1998年)されてから20年の節目の年となることから、今回のワークショップに引き続き仙台での記念行事の開催を検討することが合意された。

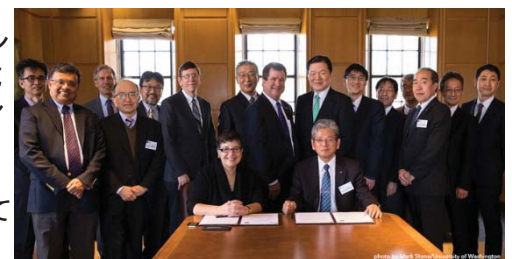


〈清華大学－東北大学ジョイントワークショップ〉

● ワシントン大学-東北大学アカデミックオープンスペースを開所

2017年4月、全米屈指の名門校であるワシントン大学(シアトル)内に「ワシントン大学-東北大学アカデミックオープンスペース」を設置し、現地にて開所式を行った。東北大学全学の海外代表事務所としては、北京、モスクワ、ノボシビルスク、タイに続く5番目の事務所となった。

米国における本学のゲートウェーとして、様々な分野の研究者や企業を交えたワークショップ等を開催するなど、新たな交流・連携のマッチングの場としての国際的共同研究体制と産学連携の推進が期待される。



〈アカデミックオープンスペース開設〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● 大学間コンソーシアムにおける活動

7月に10か国から約40名の参加を得てAPRU(環太平洋大学協会)マルチハザードプログラムサマースクールを主催し、東日本大震災の経験や教訓を共有し、大学の防災における役割やキャンパスセーフティーについて議論を行った。また、海外有力大学とのコンソーシアムに主体的に参加し、AEARU(東アジア研究型大学協会)年次総会(H29年9月)、APRU(環太平洋大学協会)年次総会(7月)、RENKEI(日英産学連携スキーム)年次総会(4月)、JANET(Japanese Academic Network in Europe)FORUM2017等に出席した。

● 海外協定校との連携強化

上記清華大学においてジョイントワークショップ開催(12月)のほか、メルボルン大学とのTohoku-Melbourne Day開催(11月)など、協定校と連携した活動を展開した。

● 海外拠点活動の充実

新たに米国のワシントン大学内に本学の代表事務所を設立し、4月に開所式を行ったほか、5月に国立交通大学(台湾・新竹)にリエゾンオフィスを設置した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング 日本版において高い評価

2017年度に公表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング 日本版」において、本学は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」のいずれも上位を占め、総合順位において3位となった。長年にわたる本学の教育改革への取組、本学の教育力が高く評価された。



6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコース実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、平成30(2018)年度通年で外国人留学生数は3,405人(前年度比134人増)となり、本事業開始以降着実に増加している。

● ユニバーシティハウス青葉山開所

平成30(2018)年9月に国際混住型学生寄宿舎となるユニバーシティ・ハウス青葉山(定員:752人)が新たに完成し、10月より入居を開始した。これにより、本学における国際混住型学生寄宿舎の総定員は1,700人を超え国内最大規模となった。

● 留学生と外資系企業のための交流会を開催

JETRO及び東北イノベーション人材育成コンソーシアムとともに、東北地域に滞在する外国人留学生ら約100名と外資系企業13社との交流会を開催した。学生にグローバルな企業選択の可能性を提示することで、今後のキャリアデザインの一助となることが期待される。



〈ユニバーシティハウス青葉山〉



〈留学生と外資系企業との交流会〉

ガバナンス改革関連

● 東北大学ビジョン2030を公表

2030年に向けた東北大学のあるべき姿(ビジョン)と、その実現を目指した中長期の方針(重点戦略)や具体的なアクション(主要施策)を定めた「東北大学ビジョン2030」を発表した。『教育』『研究』『社会との共創』『経営革新』の4つを柱とし、それらを実践する19の重点戦略を定めている。

● 国際戦略室の設置

国際展開への諸活動についてより戦略的かつ包括的な取組へと転換することを目的として、新たに国際戦略室を設置した。

● 東北大学グローバルイニシアティブセミナーを開催

平成30(2018)年度は2回(7月、3月)開催し、高等教育の国際化やグローバル人材育成をテーマとして国外の著名な講師を招へいし講演を行った。本学の今後の国際交流戦略を考察するうえで、有益な機会となった。



〈「東北大学ビジョン2030」の発表〉



〈グローバルイニシアティブセミナー〉

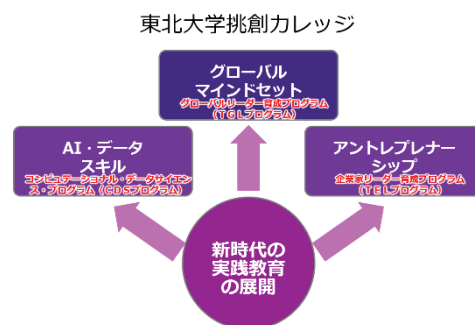
教育改革関連

● 現代的教育プログラム「東北大学挑創カレッジ」の創設

東北大学ビジョン2030で掲げた教育目標を実現するため、変革期に生きる学生のための新たな全学教育プログラムとして、「東北大学挑創カレッジ」を2019年度より開講することを決定した。主に1、2年生を対象とした①グローバルマインドセット、②AI・データスキル、③アントレプレナーシップに関する3つのトラックによる実践的教育を通して、学生の「挑戦する心」に応え大きく伸ばすことが期待される。

● 国際教育科目委員会の設置

東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)において拡充・発展してきたグローバル教育科目を体系化し一体的に取り扱うことを目的として、学務審議会科目委員会のもとに「国際教育科目委員会」を新たに設置した。国際共修実践ガイドラインの公表、モデルシラバスの提示、FDやシンポジウムの実施等を通じて、本事業終了後も持続可能なグローバル教育の体制整備が構築されている。



■ 大学独自の成果指標と達成目標

【東北大学】

● 国際共同大学院プログラム

平成29(2017)年度のデータ科学国際共同大学院、宇宙創成物理学国際共同大学院に続き、平成30(2018)年度は生命科学(脳科学)国際共同大学院(9名)、機械科学技術国際共同大学院(18名)において教育を開始した。本学が世界を牽引する分野において世界トップレベルの大学同士によるカリキュラムの協働と研究者交流、学生交流が行われることにより、教育力の向上と研究力強化がさらに促進されることとなった。

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)では、グローバルリーダー認定者は年々増加しており、平成30(2018)年度は27名(前年度比9名増)に対してグローバルリーダー認定証を授与した。本事業でリーダー認定した多くの学生達が卒業後、世界を舞台として活躍することが期待される。



〈GP-Mech授業の様子〉

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● 国際学長会議等への参加

日本・ドイツの有力校6大学で構成される日独6大学ネットワーク(HeKKSaGOn)学長会議をはじめとして、日露大学協会総会(日露学長会議)、第22回環太平洋大学協会(APRU)年次学長会議等に参加し、本学の国際的な評価とプレゼンスの向上を図った。

● 東北大学ベトナム同窓会発足

ベトナムのハノイで東北大学ベトナム同窓会が設立し、記念式典およびセミナーを開催した。海外同窓会としては7番目となり東北大学ネットワークのさらなる国際的広がりが期待される。当日は、本学主催のベトナム人高校生対象のコンテスト「TU Future Global Leadership (FGL) Challenge in Vietnam」の決勝プレゼンテーションも行われた。

University Alumni Association in

Hanoi, February 23rd 2019



〈東北大学ベトナム同窓会:
右から大野総長、ベトナム同窓会Viet会長、
チュイロイ大学Thu学長〉

● 東北大学SDGsシンポジウムの開催

東北大学SDGsシンポジウム「持続可能な開発目標(SDGs)の達成とグローバル人材」が開催され、東日本大震災など災害の経験も踏まえた「社会とともにある大学」としての本学のSDGsの取組が紹介され、本学の国際プレゼンスの向上が期待される。

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● UCL-東北大学キックオフ・パートナーシップイベント開催(2018年10月)

英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)においてUCL-東北大学キックオフ・パートナーシップイベントを開催し、東北大学の訪問団約50名とUCL関係者約40名の合計約90名が出席した。両校の連携について、今後さらに戦略的かつより強固なものに発展させることが合意された。



〈UCL-東北大学キックオフ・パートナーシップイベント〉

● 第2回東北大学-清華大学ジョイントワークショップ開催及び清華大学学生訪問団の来訪(2018年7月)

第2回東北大学-清華大学ジョイントワークショップが本学で開催され、中国の清華大学からの訪問団約60名と本学関係者約60名の合計約120名が出席した。昨年度(第1回)の材料科学とスピントロニクス分野に加え、新たに災害科学分野のセッションが開催され、より幅広い分野で両大学の研究交流が行われることとなった。また、同日程で清華大学の学生訪問団66名と本学学生との交流イベントも実施し、折り紙を使ったコンペ方式のワークショップが行われた。

● UCLならびに清華大学とのマッチングファンド(共同研究ファンド)実施

東北大学とUCLならびに清華大学の研究者が共同で行う研究・交流活動を支援するために、両大学の共同研究を促進・奨励するための「共同研究ファンドの設立」について合意され、プロジェクトの募集を開始した。

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング 日本版において高い評価

2018年度に公表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング 日本版」において、本学は「教育リソース」「教育満足度」「教育成果」「国際性」のいずれも上位を占め、総合順位において3位となった。長年にわたる本学の教育改革への取組、本学の教育力が高く評価された。



7. 取組内容の進捗状況(令和元(2019)年度)

【東北大学】

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

● 外国人留学生の受入促進

グローバル30採択後に新設した英語で学位取得可能なコース実施のほか、交換留学プログラム、国際共同大学院プログラム、海外拠点や国際広報センターをはじめとするリクルート活動の充実等を進めた結果、令和元(2019)年度通年で外国人留学生数は3,548人(前年度比143人増)となり、本事業開始以降着実に増加している。

● 外国人教員・研究者の雇用促進

総長裁量経費を財源とする「外国人教員雇用促進経費」(1.1億円/年)のほか、「クロスアポイントメント活用促進支援制度」(2億円/年)及び「若手女性・若手外国人特別教員制度」(2億円/年)を新設し雇用を支援した結果、外国籍教員数は平成27年度比で37.3%増となる265人まで拡充した。

● 留学生ヘルプデスク開設

留学生の生活や修学に関する質問や相談に関するワンストップ窓口として「留学生ヘルプデスク」を2019年度に開設した。日本人と外国人の先輩学生が常駐し相談を受け付けており、ピアサポート促進と留学生への支援が益々充実されることとなった。



〈英語で学位取得可能な国際学士コース〉



〈留学生ヘルプデスク〉

ガバナンス改革関連

● 国際アドバイザリーボード(第2回)を開催

2019年10月に本事業の外部評価となる「東北大学グローバルイニシアティブ構想諮問会議」(国際アドバイザリーボード)を仙台で開催した。本会議は2016年度に続き2回目となる。当日は、英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)のMichael Arthur学長を始めとする海外大学と産業界の有識者9名の委員が出席し、教育・研究・ガバナンスの国際化に関する前回会議からの進捗状況について総長ならびに担当理事等より説明と意見交換を行い、各委員より本学国際化の更なる発展のための様々な助言をいただいた。



〈国際アドバイザリーボード(第2回)〉

● 国際戦略の策定、公表

東北大学国際戦略室では、2018年11月策定の「東北大学ビジョン2030」で示された「戦略的な国際協働の深化(重点戦略⑰)」を実現すべく、さらなる国際化に向けた指針と行動計画を明示することを目的として「東北大学国際戦略」を2019年度に策定、公表した。

教育改革関連

● 東北大学と米国ETSが英語教育に関する連携覚書を締結(日本初)

これからの時代を担う人材に不可欠な高度な英語力の育成に向けて、米国非営利法人Educational Testing Service(ETS)との間で、日本の大学法人として初めて、英語教育と研究に関する覚書に2019年7月に調印した。東北大学の全学教育では、ETSが開発・提供しているTOEFL®のコンテンツを学部1~2年次の英語教育の中心に据えた、新しいカリキュラムと教育方針に沿った英語教育改革を2020年度より開始する。



● 学位プログラム推進機構が推進する「学位プログラム」の拡大

学際的、横断的な学位プログラムを束ねる組織として平成27年度に設置した「東北大学学位プログラム推進機構」では、国際共同大学院プログラムや卓越大学院プログラムを代表とする、研究科・国境・セクターを超える先進的な大学院教育プログラムを全学展開しており平成27年度の3プログラムから令和2年4月までには14プログラムまで拡大している。

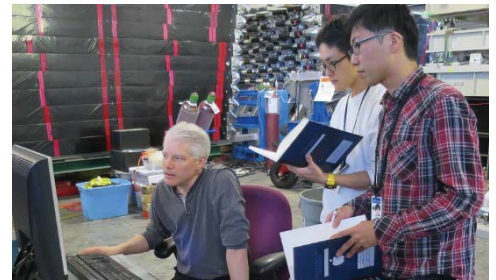


〈国際共同大学院プログラム認定式〉

■ 大学独自の成果指標と達成目標

● 国際共同大学院プログラム

2019年度は新たに日本学国際共同大学院(4名)、材料科学国際共同大学院(14名)、災害科学・安全学国際共同大学院(12名)において教育を開始した。これで9分野での国際共同大学院(総勢197名)が創設・教育開始されたこととなり、世界トップレベルの大学同士によるカリキュラムの協働と研究者交流、学生交流が行われることにより、教育力の向上と研究力強化がさらに促進されることとなった。



〈国際共同大学院プログラム〉

● 東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

2019年度は23名に対してグローバルリーダー認定証を授与した。本プログラム開始後のリーダー認定者は100名を超えており、卒業後世界を舞台として活躍することが期待される。

■ 国際的評価の向上につながる取組(タイプAのみ)

● STSフォーラム大学長会議を主催

2019年10月に京都で開催されたSTSフォーラム2019総会におけるセッションの一つとして開催された大学長会議を東北大学が主催した。会議は、「How Universities Engage with and Contribute to Social Issues such as SDGs with respect to Education and Research」のテーマのもと、世界から約70大学の学長等が出席し、東北大学大野総長は、大学間学術交流協定校である英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)のMichael Arthur学長とともに共同議長を務めた。



〈STSフォーラム大学長会議〉

● 国際会議への出席

第23回環太平洋大学協会(APRU)年次学長会議、第25回東アジア研究型大学協会(AEARU)年次総会、第7回日独6大学アライアンス(HeKKSaGOn)学長会議、第5回日本・インドネシア学長会議、第2回日露大学協会総会(第8回日露学長会議)、第11回日中学長会議といった各種国際会議へ参加し、本学の国際的評価とプレゼンスの向上につながった。



〈第23回環太平洋大学協会(APRU)年次学長会議〉

【海外の大学との連携の実績(タイプAのみ)】

● マッチングファンド(共同研究ファンド)プロジェクトの新たな実施

2019年度に開始した、東北大学ー清華大学(中国)ならびに東北大学ーUCL(英国)とのマッチングファンド設立による共同研究プロジェクトに続き、2020年度には新たに東北大学ーロレーヌ大学(仏国)との共同研究プロジェクトを開始することを決定した。世界有力大学との共同研究の一層の発展が期待される。

● Letter of Intentの調印

2019年6月にフランス・ロレーヌ大学と学術協力を目的としたLetter of Intentに調印した。この調印に基づき、2019年9月にはロレーヌ大学との共同ワークショップが開催され、長年交流実績のあるスピントロクスや数学を始めとする研究ワークショップのほか、国際交流や留学生交流担当者間によるワークショップも開催された。

また、2019年9月には米国・パデュー大学との間でも量子工学、スピントロクス、材料科学分野の更なる学術連携を目的にLetter of Intentが締結された。



〈ロレーヌ大学とのLetter of Intentの調印式の様子〉

■ 自由記述欄(取組について自由にアピールしてください)

● THE世界大学ランキング日本版2020で第1位に選出

Times Higher Education (THE) が発表する「THE世界大学ランキング日本版2020」において、本学が1位に選出された。

「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」のいずれの評価指標においても上位に位置付けられたが、特に「国際性」については、前年度より大きく評価を上げたことが、総合評価1位へとつながった。

